

第 19 回高等学校改革プラン推進委員会（第一推進委員会）議事録

- 1 日時 平成 18 年 2 月 4 日（土）午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分
- 2 場所 長野県庁西庁舎 1 階 111 号会議室
- 3 出席委員

中村 正行委員長	牧 重信委員
森野 貞雄副委員長	清水 保委員
青木 一委員	坂口 昌夫委員
中沢 一委員	小山 壽一委員
小山 元彦委員	宮本 精一委員
塚田 芳樹委員	丸山 稔委員

4 開会

（三澤教育支援主事）

それでは、お時間となりましたので委員長さん、よろしくお願いいたします。

（中村委員長）

第 19 回の推進委員会を開催させていただきます。本日は報告書を取りまとめたいと思います。今までどおり、ご協力をお願いいたします。

まず、資料が皆さんのお手元に届いておりますので、事務局からご説明いただいて、そのあと前回報告書の案をお示して、それに対して修正意見をいただきました。修正した結果をご説明いたします。

それでは、まず事務局お願いします。

（三澤教育支援主事）

はい。それではよろしくお願いいたします。

ほかの推進委員会の様子でございますが、前回の開催時と大きく変わっておりませんので、昨日第三推進委員会より報告書が提出されております。内容につきましては、前回ご説明申し上げましたので、省略させていただきたいと思います。

それと本日ご用意させていただいた、委員さま用の資料でございますが、屋代南高等学校の多部制・単位制高校への転換について要望書ということで、屋代南高校分会職員一同ということでまいっておりますので、ご覧いただきたいと思います。

あとは報告書（案）の資料であります。内容につきましては委員長さまよりご説明いただきたいと思います。

以上でございます。

（中村委員長）

それでは早速ですが、報告書（案）の修正のものをお手元の資料に基づいてご説明したいと思います。前回にいただいた修正意見と、それから文章でその後いただいた意見、両方を含めて修正させていただきました。最初から、一通り通してご説明いたします。その

後で全体を通してご質問、またご意見等をいただきたいと思います。若干お時間をいただきたいと思いますと思いますが、少し長くなります。

まず、はじめにの辺りから、それから2番目の推進委員会の開催状況のところですが、はじめにのところは、何も修正してごさいませんが、開催状況のところは18回と19回をつけ加えさせていただきました。19回の内容、それから19回の今日の報告書についてというものをつけ加えさせていただきました。終了時間は、これは予定でございまして、変更する可能性もあります。

3番の、教育委員会からの検討依頼事項について、ここは長い間空白になっていたのですが、議事録を最初から見直しまして、私のほうでそこにお示ししたような文章にさせていただきました。

最初の項目、これについてほぼこういう項目でご議論いただいたということで、全体のまとめ。それから、4つの依頼事項、魅力ある高等学校づくりに関する事項等について、それぞれ関連するところを、議事録に基づきまして、なかなか文章にするのがさまざまたくさんのご意見をいただいているので難しかったのですが、できるだけ多くのご意見を入れてまとめさせていただきました。主に、こういうことが議論されたという表現になっております。あらかじめ資料のほうは、お手元に届いていると思いますので、ここはこのように書かせていただいたということで、また後ほどご意見をいただければと思います。

4番目、県立高校再編整備候補案、第1通学区についてということで、前回たくさん見ていただきました。それを全部勘案しまして、私のほうで所々修正させていただきました。ここも順番にご説明いたしますが、まず枠内に再編整備候補案の記述があったのですが、それは候補案の議論だけでなく、もっと広く議論した結果ということですので、それを取らせていただきました。ですので、タイトルのような、角の丸い四角で囲んだタイトルを付けさせていただきました。4.1から4.5まで、共通でございます。

まずこの修正したところは、全体はそういうところですが、4.1の飯山地区のところ、方向性の最初の「・」のところが、具体的な高校名が入っております。これは最初、普通高校という記述でしたが、理数科や体育科もあるというご指摘もいただきましたので、統合していく高校の名前を具体的に挙げさせていただきました。

それから要望のところの「・」の6番目、統合し新しい学校としてスタートする際にはという、この部分のところを、その文章のように修正させていただきました。これは2校舎制の弊害に配慮すべきというご意見をいただきましたので、そのところをその文章のような修正をしてつけ加えました。

それから25年までは9学級編成が可能と予想できるので、そのことを記述したほうがいいのではないかとご意見ですが、その辺は2校舎制の問題、それから具体的な数字が確実なものではないということから、その6番目の「・」のところに勘案されていると考えまして、その具体的な表現は入れてありません。

それともうひとつ、要望の最後の「・」のところに、最初の文章は中高一貫教育だけ書いてあったんですが、併設型の記述も加えてほしいというご意見をいただきました。併設型中高一貫教育。修正は「連携型や併設型など」というふうにつけ加えさせていただきました。

連携型もここに記入して検討いただくことで、若干連携型が困難というご指摘でしたが、その困難さも浮き彫りになる、そういう検討が行われるということで、その2つをつけ加えさせていただきました。

次は、4.2の中野市、須坂市を中心とした地区というところで、そこは要望のところに4番目の「・」の文章をつけ加えさせていただきました。変更ですかね。少し、もともとの文章を修正させていただいたことになります。

これは、2つの高校を統合していく際に、使わなくなる校舎の有効利用というところを明示するというので、主にという言葉をつけ加えたいというご意見があったのですが、その後はそういうご意見を支持いただくご意見、それから地域で考えていく部分もあるということで、その辺の表現を考えまして、総合学科の充実については地域との連携、地域からの支えが不可欠である。そのため、高校教育を地域から支える連携に力を入れるべきである。また地域の特色を生かしたものをつくり上げていくというところを、つけ加えさせていただきました。校地の空いたところの利用も、地域で考えていく必要があるという、そういう趣旨でございます。

4.3、長野市、千曲市周辺で、まずここは2項目入っておりますので、タイトルを高校の統合のタイトルを付けさせていただきました。それで、このところはまず、中条高校、犀峡高校の統合のところですが、要望のところに、これは修正ではないのですが、ご意見をいただいた。それは子どもたちがいなくなってしまうことで、地域の交通機関の衰退につながるので、その辺にも配慮する、残すような要望をしていただきたいということでした。

それは、バスの便あるいは交通機関がなくなってしまうところに配慮すべきということだと思います。ですので、交通機関だけではなくて、その前の総合学科のところと同じで、空いた校舎というのは地域の関係を保ちながら、高校生あるいは中学生の交流施設として活用する方法と、要望の3番目の「・」がありますので、そこに含めさせていただいて、交通機関だけの記述ではないという記述にさせていただきました。特に修正をするということはありませんでした。

それから長野南高校、松代高校の統合ですが、このところの表現は口頭で申し上げました。口頭で申し上げたものを、ほぼそのままそこに記述させていただきました。修正の意見としては、そこに記述されている内容とほぼ同じことですが、この地域がすぐに再編統合に必要な条件にはないというところ。それから2区、3区、4区を広域に見て、統合再編をしばらく検討すべきというご意見もいただいています。

ここも前回だいぶご議論いただきましたので、これらの修正意見というのは方向性のところと要望のところに記載があって、うまくみ取ってある、含まれているというご意見をいただきました。ですので、口頭で申し上げたその文章のまま、そこに記述させていただきました。

あとひとつ、要望の一番最後の「・」のところ、ここが4区においては全日制普通科の多部制・単位制への転換も考えられていると、こういう文章にさせていただきました。これは普通科の選択肢が減ることが懸念されている、そこにじゅうぶん配慮すべきだというご指摘が、ここと多部制・単位制ですね。4.4でも両方でご指摘いただきましたので、両方に記述するというようにさせていただきました。

ですから重複した表現になるので、片方は多部制・単位制の転換、片方は2校の統合ということで、表現を分けて、同じことを言っておりますが、表現を別にして補強する形で、両方にこの要望を入れさせていただきました。

それから、議論の途中であるというので、それを記述すべきだというご意見もありましたが、方向性のところにそういう議論の途中といたしますか、議論したところの項目が2項目つけ加えられております。例えばこのような意見が出ているとか、望ましと考えられるというような表現が出ておりますので、議論の途中はその表現に変えさせていただくということで、修正のご意見はそこに反映させていただいていると考えさせていただいています。

4.4、多部制・単位制高校の候補というところ。ここは、方向性のところの3番目の「・」をつけ加えさせていただいています。地域連携の中で、多部制・単位制高校の魅力を実現していく上では、地域の産業や文化歴史等の地域性を活用し、教育に生かしていくことが大切である。これらの点では、候補案として考えられた坂城高校と推進委員会の対案として考えられた屋代南高校のある坂城町と千曲市は、それぞれに特徴があり、両校に関して遜色はないと考えられるという表現をつけ加えさせていただきました。

これは地域からの要望書等がきております。そのところには、交通の利便性だけで判断してよいのかというご意見もいただいておりますので、この推進委員会では、それだけではなくてその表現のようなこともご発言いただいておりますので、それを勘案したという表現にさせていただいています。

要望のところに、既存の高校から多部制・単位制高校への転換に際してはいくつかの課題が考えられる。下から2番目の「・」でしょうか。それをつけ加えさせていただいています。これは、全日制高校がその地域からなくなる等の観点から、多部制・単位制への転換は適切ではないというご意見もいただきました。それから既設の高校の、多部制・単位制への転換は、かなり困難な点が予想されると。地域や現場の同意が、納得が必要であるというご意見、そういうことも考えましてこれを要望としてここに挙げさせていただいています。

それと最後の、要望の「・」ですね。これは先ほどのこの4区における普通科の選択肢が減ると。普通科の校数が減るということでしょうか。それが懸念されるというのを、ここに表現させていただいております。その2つの「・」を追加させていただいております。

4.5、定時制、通信制の課程についてです。ここも、ちょっと強い表現ですが、夜間定時制と通信制の統廃合については、個別の十分な検討ができなかったとつけ加えたほうがよいということでしたが、議事録をかなり前のほうから全部読んでみますと、所々にやはり校名が挙がって、定時制高校のことに 대해서는議論がされています。それは、多部制・単位制高校の設置についての議論が、この委員会では一番多かったわけですが、それとセットで同時に語られている、議論されている、検討されていると考えられます。

ですので、そういう表現というよりは、ここでは多部制・単位制を設置していくということが決まりましたので、それに伴ってやはり吉田高校、長野商業高校、篠ノ井高校の定時制および長野西高校の通信制を統合することが考えられるという表現を、そこへ加えさせていただいています。

それとセットですね。その下の「・」は元からありましたが、長野高校定時制と長野工

業高校定時制および中野高校と中野実業高校の統合高校に設置する定時制は、そこに整備充実を行い維持していく必要性が述べられていますので、それとセットで2番目の方向性の「・」をつけ加えさせていただきます。

それとやはり議論が途中なのではないかというご意見も、何回も出ておりますので、要望のところに、2番目でしょうか。推進委員会では多部制・単位制の導入に関する議論を数多く行うと同時に、定時制、通信制の高校に再編に関する検討も行った。再編にあたって生じる個々の定時制、通信制高校の課題については、じゅうぶん配慮しなければならぬということが指摘されたという要望を、1つつけ加えさせていただきます。

もうひとつ、最後の要望の「・」ですね。既存の定時制に多部制・単位制の利点や要素を一部導入する方向も検討すべきである。これは上のほうの表現と重複する部分もあります。整備充実を行って維持していくというところに、具体的に多部制・単位制がよいことであるということで、多部制・単位制の利点を追加して、導入していくという、そういう要望をつけ加えさせていただきました。

5番目の実施計画策定に向けての要望、これもご議論いただきました。それで、修正意見としては5.1の、最初の10行ぐらひは、これは推進委員会の所掌ではないというようなことだと思いますが、削除してもいいんじゃないかというご意見をいただきましたが、よく読んでみると後ろのほうの表現の補強というか説明になっておりますので、ここを抜いてしまうとちょっと弱い部分がありますので、その部分は私も、それはすべて把握しているわけではございませんが、検討委員会にも何回か出させていただいていますし、懇談会にも10回ほど出させていただいてご意見を伺っていますので、その辺の思いも含めさせていただいて、記述はこのままにさせていただきました。

それと、天下り式という表現は取りました。それはなくても、じゅうぶん伝わる内容だと思います。あとご意見としては実施時期の話が18回の最後のところでご議論いただきました。19年度実施がはたして可能なのか。じゅうぶん検討する、その期間はどのくらいなのか。いたずらに延ばすこともいけないが、その期間を明示すべきというご意見。それから19年度実施はもう不可能なので、20年度以降の早期にとすべきであるというご意見。

そういう議論をいただきましたが、われわれはすべての計画を考えて、どの時期が適切かというのはなかなか判断が難しい。20年、19年というのはそれぞれの個々の再編にも依存していることですので、年号を入れる、年次を入れるというところは、私はしないというふうにしまして、10ページの下から2行目ですね。「よって」からの部分。

最初は、早期にということだけだったのですが、いくつかいただいた意見の中から、「よって実施計画策定時に確実な実施時期を定め」、この確実な実施時期を定めというのは、年次をちゃんと明示しなさいと取っていただいて、「確実な実施時期を定め、その計画を早期に示して」、これは皆さんに説明していただいて、さらには実施計画に基づいて速やかに実施しと、確実さと速やかさ、それから慎重さでしょうかね、その辺も勘案した文章としてそこに触れさせていただきました。

具体的な数字が入らないので、なかなか確実にそういうことになるのかと反論をいただくかもしれませんが、おかしな計画を示すということはないと。それがもう、それこそ確実さに欠けることになってしまいますから、そういうことはなくきちんと信用して、こういう表現にとどめるということにさせていただきます。

もうひとつ最後に、人的、財政的支援をしてほしいことを強調してほしいという意見をいただいていたので、5.4 としてそのような表現をひとつつけ加えさせていただきました。この表現でよろしいかどうか、私の作文ですので、意を汲めているのかどうか、またご検討いただきたいと思います。

あと、「てにをは」で直したところがちょっとありますが、それはひとつの単語なりということですので、それに関してはあえて申し上げませんが、修正部分は以上のとおりでございます。

それではここで、全体を通してまずご意見、これでいいのか、あるいは前回の意見はどうかになったのかというようなことでもよろしいので、ご意見をいただきたいと思います。

18 回の委員会が終わった後は、お 1 人からご意見をいただいただけでございます。その辺に関しましては、ほぼもともとの表現とあまり変わらないということで、若干接続のところの接続詞を変えたりということで修正しました。市川委員からいただいたものですが、今日、市川委員がご欠席ですが、メッセージをいただいています。

何か終わりのような表現ですね。「一委員として、皆さまに大変お世話になりました。このたびの報告書に関しましては、総じて賛意を表します。しかしながら実施に当たっては、再編整備に向けての統合事項をじゅうぶん考慮し、検討していただくことをお願いいたします」そういうメッセージです。

修正意見のほうは、松代と南高の統合のところに、若干もう少し強調してほしいということですね。市川委員は、それほど修正といっても大きなものではなかったと思います。

（丸山委員）

その後の意見は私は言っていないので、それはもうこの前出た意見のところで、この前の、前回の議論をどう反映していくかということでの意見としたいと思います。いくつかあります。1 つずつ出していきます。

飯山地区です。2 校舎制の問題の配慮として、いくつか詳しく書いてあるというのは、それは了解しますが、この前の議論では 2 校舎制の問題点自体が問題だと。だからそこを指摘すればいいという意見もありましたが、1 つの校舎になれば解決するという問題ではなくて、地域でいうとすぐに普通科が 1 つになってしまうという、そこに対する不安があるということで、段階的とか年次的という議論が出たわけです。

それで段階的とか年次的とか言葉が入るかどうかは別として、その辺のニュアンスを少し要望にでもいいですので、入れておく必要があるんじゃないかと思います。この前の議論でいくと、入れておく必要があるんじゃないかなということです。

少なくとも、方向性の、この前も私は指摘しましたが、これだとすぐに 3 校で 1 校にしていくということになるわけですね。それ以外は、あり得ないということになるわけですよ。なぜかという、「当面の間」と書いてあるわけですね。当面の間というのは、当面の間であまり先の話ではないわけです。

そうすると当面の間 3 校を 1 つにして、下高井農林と 2 校にするとされているわけで、これは確かに農林と統合した学校 1 校と農林との関係を要望にも書いてありますが、その議論もありましたが、そこを今の統廃合のこの流れの中では、飯山でいくと 2 校にしていこうというのが目標とありますが、想定だと思うのです。

だからそれは当面の問題ではなくて、この改革の最終点といいますか、目標といいますか、そこになるわけだから、「当面の間」というのは、少なくとも入れるべきじゃないというのが1つと、それから要望の中でズバリなかなか書けない、ほかの意見もあるので書けないということはわかりますが、やっぱり地域でもいくつかの意見として普通科が1本になることについて不安があり、しかも25年までの間、その数字は入れる必要はないと思いますが、9クラスになるまでは何とか2校でもという話もあるわけで、その辺のことを地域で検討できる可能性を残しておかないと、この方向性だとすぐに3校で1校にするための準備をすぐ始めるという話になってしまう。それはちょっと地域の動きとは違うのではないか、地域の動きを封殺してしまうのではないかなと思います。

この2つで、「当面の間」というのを除くのと、それから今私が言った趣旨のことを2校舎制だけではなくて、普通科を1つにしてしまって、その選択が狭まってしまうという、その地域の不安というか、心配というか、その辺のところもじゅうぶん配慮せよということ、要望の中に入れろというのが前回の議論の何というか、議論の様子を示すとしては、そういうことではないのかなと思います。

（中村委員長）

はい。地域に一本化したご意見があるとは考えませんが、飯山照丘高校、飯山北高校、飯山南高校3校は、どこかの高校を先になくしていくのではなくて、3つの高校は一度に1つの高校とする。このような要望もあるとお聞きしていますので、この辺は地域と話し合っていて、どちらの要望がよりよいのか。再編を進めていく上で、地域とともにやっていけるのかということは、考えていかなければいけません。普通科を2校残すというようなことが要望されているかどうか。その辺は議事録からは伺えなかったものですが。

確かに普通科が一度に減ってしまうという懸念というのは示されていると思いますが。地域で3校を支えていくということからすると、どこかが犠牲になってというか、最初に統合されてということではなくて、3つ同時に再編を考えていくというご意見をいただいているということから、このような要望の項目になっています。

「当面の間を除く」というところが、私には意味がはっきりわからないのですが。その当面の間ということが、当面というのがかなり世間一般ではよく使われますね。先送りをするときの用語なのかもしれませんが。

（丸山委員）

ですから今度の再編整備のこの中では、下高井農林もいずれ3つを統合した学校と下高井農林との統合というか、そういう問題についても、この中の統合の中のスケジュールの中で考えるべきだということならば、当面だと思います。それはその先の話を、要望の中には出しているのではないかなと思います。

今の改革の先に、1校にしたのと農林とはどのようにしていくかということについて検討すべきだという、そういうことだと思うんです。6学級というところに書いてある、「・」の下から2番目です。それは、今の改革の中で、それもやりなさいという提案ではないと思うんですよ。ということは、今の改革の目標が3校と1つにして、それから農林と2校にするというのが目標なわけですよ。そうすると、当面ということは必要ないんじゃない

ですか。

ですから当面となってくると、私の言っている意見は、ズバリ書けないとしたら、さっき私が言ったような意見を書けない。私が言っているのは、私だけの意見じゃないですよ。この委員会の中でもいくつかあったわけですよ。前回もあったわけですよ。だからそのところズバリ書けない状況があるとしたら、それはわかりませんが、何か書けない事情があるとしたら、それは当面の間というのを除けばですね、当面の間ということは、つまり3校、すぐに3校を1校にするという意味でしょう。それしか選択肢はないよということですよ。これで読むと。当面の間というのは、そういうことじゃないですか。当面の間ということは、ズバリすぐにということですよ。当面の間の前にはないわけですよ。だから当面の間のことをすぐやるわけですよ。それが何年先かわからないですけどね。そう読めるわけですよ。

そうするとこれは、すぐに1校にするということであって、そうすると地域でのいろんなそういう心配を含めた議論も、検討する余地はないわけですよ。すぐに3校で1つにすることを考えなさいということになるわけですよ。だから少なくとも、「当面の間」というのを除いておく可能性を、そうするとそういう議論の可能性も出てくると。別に最終目標に反対しているわけではないわけです。

（小山（壽）委員）

私も、「当面の間」にこだわっている理由がよくわからないのですが、飯山の場合問題点は2校舎制です。3校統合したときに、その3校の生徒を収容できる学校がどちらにもないと。これが一番の問題なのです。

そういうので2校舎制の問題を、こういう形で要望の中に入れていただいて、大変ありがたいことだと思っております。校舎の改築施設の整備を前倒しで進めてほしい。つまり1校で、生徒がすべて収容できる体制ができれば、2校舎制の問題は解決されると、こういうことです。

またそこに向けての年次を示していただく、こういうことが大事なことであると思っております。2校舎制にはさまざまな問題があるということでもありますので、こういう表現でいいのではないかなと思っております。

（小山（元）委員）

前回、平成25年度まで9学級が可能な限りというのが私が出したわけですが、先ほどの委員長さんの説明で具体的な表記は、入れなくても確かな内容については第6点目のところにじゅうぶん入れてあるというお話をいただいたわけです。

具体的な表記ができないとすれば、委員長さんの説明、これまで18回にわたって議論をしていただいた、その立場からこの6点目にじゅうぶん入るということをおっしゃっていただいたとすれば、これは一応了解していく方向かなと考えているわけでございます。

いわゆることしのような豪雪の場合、そう豪雪は重なるわけではありませんが、飯山は冬は確かに雪が降りますよ。そのときに2つのキャンパスでやはり移動する。教員の移動。特にことしの場合には、小山校長先生など一番ご苦労されていると思いますが、教員の皆さん方の駐車場確保だけでも、これは大変なものですね。

そういうことから考えまして、やはりそういう点の今の6点目、それからそこにいくつかが、その上にありますが、そういうところはじゅうぶんやはり配慮していただいて、その地域性というものを、地域の風土関係、全部ありますが、長野県は非常に広い範囲でございます。ですからそういうところはじゅうぶん考えていただきながら、今後校舎の改築および施設の整備等、じゅうぶん学ぶ生徒諸君のため、そしてまた地域の支援をいただくような方法で進めていただくことを、ぜひ条件としてお願いしたいと、そういう立場でございます。

ですから、具体的な表記は一切入れなくても、その内容が含まれていれば、この飯山地区の再編問題については、これでお進めいただいてもいいんじゃないかという立場です。

それから一番下の「・」でございますが、中高一貫教育の導入と言うところで、前回併設型も入りましたけれども、連携型も入れていただいた、やはりそれぞれのものでじゅうぶんに検討をしていく必要があるということは大事にしたいと。この表記、入れていただいたことは、本当にありがたいと思います。

(中村委員長)

特に表記に関してはご意見がなければ、このとおり進めさせていただきたいのですが、丸山委員の「当面の間」を除く理由が、私にはちょっと解りかねるのですが。

再編を想定しているところにかかる用語かなとは思いますが。その先に関しては、まだ一度も議論していませんし、何も言えないと思います。

なければこれで、別の項目へいってよろしいでしょうか。

ほかにご意見はございますでしょうか。すべてを通して、で結構です。報告書案の内容、全部ですね。特に新しく、3 ページあたりからだいぶ長い文章を付け加えましたけど、ここはよろしいでしょうか。

非常に多様なご意見をいただいて、なかなか文章にならないなと思いながら、最後はもうあきらめて個条書きふうにさせていただきました。議論をした内容を明示しているということであって、その結論に関しては4項目から書かせていただいたというような立場です。ですから、4項目めが、一番の争点になるのかと思います。

何かほかにございませんでしょうか。

(丸山委員)

これは確認ですが、中野地区については前回の議論というか、あまり議論にならずに教育委員会からの意見がありました。それ以外にあまり私が出したところに対しての意見はなかったような気がするんですが、趣旨としては入れていただいたと。組織の問題とか地域との連携の問題は、それは了解をしたいと思います。

それからさっきの委員長さんの説明で、これはちょっと不満はありますが、その中野高校の校舎の利用についても、これも何か書けない事情が背景にあるのかと思いますが、地域の特長を生かしたものに作り上げていくというところに含まれるという説明で、ということですね。それはちょっと、確認をさせていただきたいと思います。何かズバリは書けない問題があるのかなと。

ちょっとこれは余計なこと、聞いておいてもらえばいいですが、統廃合で校舎を使う

と、統合ではなくなるという話が県教委からありましたが、そうすると飯山の2校を使うというのはどうなるのかなと。矛盾しているなという感じがするんですね。そんなこともあります、あまりいろいろ言っても時間もありませんので、そこはそういうことが含まれているなら了解をしたいと思います。

あといくつか、2、3点あるんですが、そこは中野地区のことについては、そこをちょっと意見を言っておきます。

（中村委員長）

教育施設として活用するというのは、かなり前提にはなっているのだと思います。別のものになってしまうというのは、なかなか考えにくいし、これはやはり地域の人たちとじゅうぶん話し合っていく必要があるということで、どういう施設になるかは、やはりここで議論というよりは地域との議論がいいんじゃないでしょうか。ですので、この2つの校舎を使うという、学校として使うということではなくて、有効活用していただける方向を示してあればよろしいんじゃないかと考えました。

まさに地域性ということですね。飯山には飯山の地域性、中野には中野の地域性がある、こういう表現になっています。矛盾と考えるかどうか、その辺は考え次第だとは思いますが。

（清水委員）

すみません。お聞きしたいことがあります、実質的に本日のこの推進委員会が最終的なものになるのではないかとというふうに私は考えていますが、この報告書がまとまった後のこととして、どういう扱いをされていかれるのかということが、知りたいところですが。

例えばこの報告書の中にあります、方向性にしましても、要望にいたしましても、この推進委員会で議された内容に関係している各学校の関係者の方々に关しましては、すべて丸く収まるというものでは決してないわけで、不本意なところ、不満なところもあるかとは当然思いますが、我々が本日を含めて19回ですが、ずっと議していた、そういったものの方向性なり、要望というようなものというのが、県教委としてどういった意見があるかということ、われわれが知ることはできるのかどうか。できるとするならば、いつそういったことがわかっていくのかというようなことも、ちょっとお聞きできればということで、ちょっと発言させていただきました。

（中村委員長）

修正に関してのご意見は、それを考えてからということでしょうか。その議事進行の面で。県教委の考えを聞いてから、修正に関して何かご質問、ご意見があるという。

そういうわけではなくて。

（清水委員）

県教委側の立場と、この推進委員会の立場で議しているわけではないので、この方向性は方向性として推進委員会がまとめたものとして、それはそれでいいと思いますが、特に具体的に気になるようなところと、一番最初にそういうことを考えた理由が。

その実施計画の時期の問題です。段階的にやっていくことが望ましいところとか、11ページの上から3行目の辺ですね。2行目ですか。「地域を含めた関係者の理解と協力を得る調整を図りながら、再編整備を伴う予算確保も含め、着手できるところからの段階的实施も考慮していただきたい」と書いてありますね。

はたしてこのようにしていただけるのかなということを、一番最初に考えて申し上げた内容です。

(中村委員長)

この要望に関してどうこうということではなくて、この報告書の取り扱いに関してお聞きすればよろしいでしょうか。

(清水委員)

これが、そう考えた一番の根本ですが、これも含めてそれぞれの方向性なり要望というものがあるわけで、そういったものの個々の回答といえますか、最終的なご判断を当然県教委でされるわけですが、その時期等はこの推進委員会に対しての話としては載ってこないのでしょうかね。

(中村委員長)

わかりました。例えば今月21、23日には、推進委員会の検討結果説明会というのが中野市民会館、篠ノ井市民会館で、第1通学区についてでしょうが、あるということをお聞きしております。そういったように、報告書を受けて教育委員会が対応をしていくということですが、報告書の内容自体は、やはり実施計画の中で反映されていくと考えます。そのままをお使いになる、これはもう当然考えられないことですね。それは実施計画を計画するという作業の中で、取り扱っていただけたらと思っていますので、その辺を事務局の言葉で説明をお願いします。

(吉江高校教育課長)

ある意味、委員長さんから今お答えいただいたといえますか、ご発言いただいたとおりという面もありますが、私ども従来から、5月29日の第1回目の推進委員会のご説明の折にも申し上げておりますように、こちらのほうを含めて4つの委員会からご提案あるいは最終的にいただきました報告、これにつきましてはそれを考慮して、それで基本的には年度末までを目途に実施計画を策定してまいりたいと考えております。

ですから時期的には、そんなような時期までにおまとめいただいた内容、当然ながらここにございますような、方向性とかあるいはご要望等も含めてのものを、考慮させていただいて、実施計画として策定してまいりたいと考えております。

また今もお話ちょうだいいたしましたように、実はこの2月の8日、来週からそれぞれの地域におきまして4つの通学区ごとに2回ずつ説明会を実施するということで、その折までに報告書をいただいている地区につきましては、その報告書やらのご説明も含めて、それに対してのご意見、ご要望等もちょうだいして賜りたいと。

また12月から1月の中旬にかけてまして、県民の皆さまからもアンケートといいますが、

ご意見等ちょうだいした経過もございますので、そういうような内容も含めて実施計画を策定してまいりたいと考えている次第でございます。

（中村委員長）

清水委員、いかがでしょうか。

（清水委員）

はい。私の質問の仕方が、大変まどろっこしい言い方で申しわけなかったですが、そういったことをお聞きしたかったわけで、ありがとうございました。

（中村委員長）

報告書の修正案についてご意見をいただきたいのですが、ほかにありますでしょうか。今の中野地区に関してはいかがでしょうか。

丸山委員からご意見をいただいておりますが、ほかの委員さんでそのことについてでもよろしいですが、ほかのことでもありましたらお願いします。

全体を通してありますでしょうか。

（丸山委員）

これはかなり大事なところだと思うのですが、前回もちょっと議論があって、この実施時期ということを明記するかというか、どういうふうにするかということは、議論が残っていたような気がするのですが、委員長さんの案では、さっきのように数字的なことについては、いろんな状況等もあって、地域の状況等もあって入れるのはどうかというご意見もありました。

ただ 10 ページのところに、「実施計画策定時に確実な実施時期を定め」という、この「確実な実施時期」というのが、いろんな条件を含めて慎重にという意味だと思うので、そういうことの説明がありましたが、それはわかるのですが、ただ今の時点でこの委員会の中でよく議論になって、県教委に質問をした中で、かなり多くの委員さんから 19 年度実施というのは、1 つは準備の段階で無理だ、かなり大変なことになると、これは何回も説明したからもうしません。

これは現場から来ている委員の皆さんが、ほとんど言ったわけですね。それからもうひとつは今の中学 3 年生、今、受験する、来週前期試験をやる受験生の心情といいますか、まだどうなるかわからないまま受験していくという、そういう問題、2 つの問題も含めて 19 年度実施というのはもう無理だと。どうなんだということを、議論の中で盛んに県教委に質問したときに、課長は「19 年やります」とだけしか言っていないわけですよ。

ここが問題なのです。つまりこの委員会では、19 年度実施というのは問題ありということが出ていたんじゃないですか。そこはだから書いておく必要があると思います。少なくとも、私が提案した 20 年以降ということが書けなかったら、19 年度実施についての問題点は具体的に書いておく必要がある。これはほかの委員会だって、書いてある委員会もあるわけですよ。

これは、かなり重要なことだと思います。ほんとに現場は、19 年実施だったらとてもで

きませんよ。これは、もうひとつ言いますが、これも前の繰り返しになりますが、もし 19 年実施って県教委が堂々と言っているということは、どこかですくってこれでやれというやり方だったらできるということなんですよ。

そんなことをやったら、この改革はとんでもないことになる。どこかで上でつくって、委員長の報告にも、文書は削除されましたが天下りのものではないということが、それが長野県的な改革であるを書いてあるわけですよ。それは私も認めますよ。こう、委員会をつくって議論してという、これを本当に生かすとしたら、絶対に 19 年実施など無理ですよ。

だから 19 年実施が困難というか、問題点はちゃんと書いておいてほしいと。だから私は 20 年以降と提案しましたが、それが書けないとしたら、その辺の問題点を書いておかないと、何か確実な実施時期を定めというのが、ただこれ変に読むと、早く決めて、慎重に決めるけど決めたら早くやれみたいな話で、それは一般的な話としてはいいですよ。

だけど決めた以上は、じゃあ早くやれみたいなね。じゃあ 3 月までに慎重に決めて、3 月にもう 19 年実施でパッとやるんだということは大きな問題で、これは今度の改革が成功するか失敗するか、はっきり言えばそのポイントになる点だと私は思いますよ。

（中村委員長）

19 年実施、着手できる部分もあるかと思うんですね。それから 19 年が困難であるという言い方よりは、早く計画を示す大切さもあると思うんですね。計画を示すときには、確実な、これは私の言葉ではなくて、この文章は多分青木委員だったと思いますが、確実な実施時期を定めるという、これを計画時によく考えて確実なところを示すべきということから、できるところから確実に実施されていくわけです。

めちゃくちゃな計画を立てれば、そういうことはできませんから、そんなことはないはずだということで、年次を入れること自体が、早く実施すること対しては、少し緩い拘束になるんじゃないかなと思います。

一般的な表現とおっしゃいましたが、そのぐらいしかわれわれの推進委員会では、細かなところの年次を規定することは、まず難しいのではないかなと。計画を立てる人が、やはりそこは決めていってほしいと思います。そういう思いです。

丸山委員のご意見をまとめると、19 年度実施は困難であるという指摘があったという、そういう表現が必要だということでしょうか。

（丸山委員）

はい、そうですね。ちょっといいですか。

だから私も、実施計画を決めるのをズルズル延ばせとは言っていない。それはよくないですよ。実施計画を決めて、何年度からやりますということは、もちろんちゃんと出すべきだ。何年度から実施のところで、19 年というのにずっと言い続けているわけです、事務局は。すべてのものを 19 年にやりますと言っているわけです。

ところがこの委員会では、19 年実施は困難という意見がいくつか出たわけですよ。だから教育委員会に質問したら、「いや、19 年にやります」と言っているわけですよ。そこはちょっと考えるよということは、ここに書いておかないと、それが確実な実施時期を定

めというところで含まれていることでいいのかな。そういうことを、ちょっと感じるんです。

それで私は個人的には 19 年実施していいところはないと思います。全県を見ても、19 年実施というところは、どこも無理だと思います。

（小山（壽）委員）

無理であるか、無理でないかということを断定してものは考えるべきでないと思います。非常に困難を伴うということは、これは事実そのとおりです。非常に困難を伴います。従って各学校で実際に検討していくときに、相当な時間を要するであろうということはあるだろうと思っております。

しかし、いわば事務局は県議会においても 19 年度実施ということを、ずっと言っているわけですから、いまさら推進委員会に対して「そうじゃないですよ」なんて言いっこないわけで、それにもかかわらず推進委員会として着手できるところから段階的实施を考慮に入れていただきたいという要望をしているわけです。

また 4 区の統合についても、直ちに統合する必要はないというような文言も入っているわけです。文言の部分もそうですが、当然この推進委員会の中で議論されてきたことについては、じゅうぶん事務局において尊重していただきたいとは思いますが、ここに年次をあえて入れる必要はないと思っております。

（青木委員）

実はこの 5.3 だけではなくて、この 5.4 も一緒に加味して理解をして、また私どもの思いを伝えなければいけないと特に思うわけですが、私も丸山委員さんが心配すること、同じように心配する 1 人ではあります。ですからじゅうぶん慎重に計画を策定し、そして確実な実施時期ということもあえて盛り込んでいただいたわけでありますが、この 5.4 には一番私が心配をする、それこそ飲まず食わず昼夜を通し検討すれば間に合うものと、どうにも間に合わないものがあるわけであります。

特にこの 5.4 の 2 行目にある新しい学校としてスタートする際には、校舎の改築や施設の整備は欠かせないものである。この 2 行。それからその次にある、施設整備の予算付けは言うまでもなく、ということで、この心配な部分、時間がどうしても必要な部分は盛り込んであるわけでありますから、こういうことを踏まえた上で確実な実施計画という表現が 5.3 であるならば、両方連動して考えるならば、私どもの思い、丸山委員さんが心配する点は、私も心配であります。それを考慮しながら実施時期を、しっかりと計画の中に盛り込んでいただくという信頼を申し上げて、あえて私もこれを読んでいいのかなと思います。

（坂口委員）

全く違うことですが。

先ほども課長さんからお話があったようにと思いますが、この 2 月 8 日から各地区で説明会を行うと。実は学校へも、保護者、生徒へも周知いただきますようにということで、具体的なこういう 1 枚のもの（通知文）が送られてきております。

ちょっとお聞きしたいのですが、2月8日、9日、もう来週木曽、大町と、これは第四でしたか。ということは、最終報告案ができた順番にきっと早い段階で行われるのかどうかと思うわけですが、具体的にこの場で何を説明するのかちょっと見えてこない部分があるのです。

今まででも高校改革プランというのは、県案で出されているわけで、それについて推進委員でいろいろやって、新たな代案も含めて出している。この説明会の中身は、ちょっと見えてこない部分が非常にあるわけでありまして。今までと同じものであれば、今やる意味があるのか。意見を聞くというのならばいいのですが、県民に10日までにいろいろ意見を求めているし、いろんな要望書も来ている。

そういったときに、生徒や親に配るときに、こういうことが説明あるんだよというものについては、何も触れていないもので、ふるってご参加くださいという期待を県からは発信しているわけですが、どうもこの最終報告案と一番最初に出した県案と、ここでやる説明の中身がちょっと見えてこないんですが、どのように考えているのか、ちょっとお聞かせいただければありがたいと思います。

(中村委員長)

説明会の内容についてということですか。

(坂口委員)

そうですね。

(中村委員長)

説明会の内容について。タイトルからしますと、どうも推進委員会が説明しなくちゃいけないのかなという、私は最初そう思いましたが、そうではなくて県の教育委員会が説明をするということですので、その内容についてお尋ねします。お願いします。

(吉江高校教育課長)

はい。以前もお話し申し上げたことがあるかとも思いますが、今まで実は再編整備候補案が出されて以来、基本的に私どもからは、こちらで主催するような説明会などのものは開催してまいりませんでした。

これにつきましては、当然ながらそれぞれの地域でご案内をちょうだいして、参加させていただくということに対しては、非常に積極的に参加させていただきましたけれども、ある意味能動的には動いてまいらなかったという次第です。それは理由としますと、例がいいのかどうかは別としまして、この道路を開けるから用地交渉をするんでそこに参加してくださいというようなことは、県として説明会を開く場合はございますが、この再編整備候補案というものの自体が、あくまでもこのような形でそれぞれの推進委員会におきまして、委員さん方の議論をいただいた上で方向づけをしていただくということのための検討材料であったと、あくまでも検討資料であったということの中で、あたかもそれを私どもが能動的にご説明するということが、決定事項であるかというような印象を持たれてしまうと、ということの中でそのような対応をさせていただいた次第でございます。

それでこの度、このような形で先ほども申し上げましたように、私どもといたしますとこちらのほうの委員会におきましては、19回かけて議論していただいた上で方向づけをしていただきましたので、このいただいた報告書を基本にご説明するとともに、それぞれこのようなイメージということで、推進委員会でもいただいているんで、このような方向をもとに私どもは実施計画を策定する方向で考えていきたいというようなことを、あらためて県として主催する立場でご説明をしたいと考えています。

また当然ながら、場合によりまして今まで少子化の状況とかそういうようなことにつきまして、じゅうぶんご理解いただけていなかった面もあるかと思いますので、ある意味ではそれは検討委員会における最終報告書の説明にも若干なろうかと思いますが、その辺を含めて今現在の人口等の状況、あるいは長野県の高校教育の状況とかもご説明しつつ、それぞれの委員会における報告内容、あるいは報告書をいただけない場合には、それまでの間におけるおおむねの方向性というようなものをご説明して、それに対してのそれぞれの地域からの、でき得れば建設的、能動的なご要望等もお聞きして、それを実施計画の策定に当たってのひとつの大きなデータといいますか、材料ということでご提供いただければと考えている次第でございます。

（坂口委員）

意図、それから中身については今ある程度理解したつもりでございます。ただ、各地区2回というようなこと、それから場所等も含めると出席、参加する方は、かなり限られているのかなというような気がいたします。

そうすると会議は開きますから、ぜひ来てくださいということは呼び掛けで結構なわけですが、必ずしもかなりの生徒や保護者が行けるとは限らない。そういった方への、やはり周知というものはどんなふうにしているのか。やはり中学校長の立場でいうと、少しでも早くそういったイメージ、あるいは方向性が知りたいというのが、あるいは学校として指導したいという思いが非常に強いわけがあります。

先ほどの実施計画の時期とも含めて、前期選抜するこの間の人数が一応まとまったわけですが、中条高の1.04倍、あるいは対象校になっている学校へも1倍以上の子どもが志願している状況を見ると、子どもは不安を持ちながらもやはりその学校へ行きたいというそういう子が、現に多いわけがあります。そういった子に対して、やはり少しでも早く今この説明会にある中身の大事な部分だけでも紙で、あるいはホームページを見ればいいですよということじゃなくて、紙で子どもたちに説明できるようなものを、早くに提供いただければありがたいかなと、そういうお願いも含めて述べさせていただきました。

（中村委員長）

推進委員の皆さんも、ここに報告書をまとめるに当たっては、やはりこういうものを説明したいというお気持ちもあろうかと思うんですね。それを教育委員会が主導でやっていただけるので、できるだけ広く周知して議論していただきたいと思います。

ほかに何かございますか。報告書案に関していかがでしょうか。

(森野副委員長)

8 ページの 4.4、多部制・単位制ですが、実は先般第二通学区では、野沢南が決定いたしました。そうなりますと、これは小海線ですから乗り換えで行く子どもが出てくるかと思えます。そうすると現在、ここで 1 通で挙がっております屋代と坂城が、また浮上してくるかと思えます。長野市近辺の子どもは屋代がいいでしょうし。

そうすると上田、あるいは大屋とか滋野とか、これ直通ですからしなの鉄道線がいいのかなと思います。最初上田とか千曲というような話があったのですが、南へ行きましたから。そうすると乗り換えよりも、しなの鉄道線上にある坂城、屋代というふうになってくるかな。そういうふうになると、やはりこれ各通学区で 1 校ですから、県的な立場で位置づけていただければありがたいかなと、そのように私は考えが変わってきたんですが。

そうすると 1 校ですから、やはり地理的なことを考えていただいて、隣接する通学区との関係も考慮に入れて、県の信頼性を失わないようにお願いできればと、そんなふうはこの多部制のところを考えるわけなんです。

何かこの文面でまいりますと、方向性の一番下の「・」であります、屋代南高校を多部制・単位制高校に転換することが優位であると考えられると、このように推進委員会の対案が挙がっているんですが、ここに付け加えて、県的な立場で位置づけることも考えられるとか、何かここへ入れていただければと思いますが。要望を申し上げまして、終わります。

(中村委員長)

推進委員会の中の議論をここに反映するという事で報告書をまとめる。それはもう、大前提でございます。ひとつ、交通の利便性というのがクローズアップされて表現はされていいますが、そればかりではなくて決定してきたわけですが、議論をしてきたわけですが。その結果、屋代南に優位性があるというような表現、優位であるという表現になったわけですが、そこには普通科が複数あるとか、第 1 通学区の多部制・単位制は、第 1 通学区のより多くの生徒が通えるところに配置すべきだ。

あるいは、第 2 通学区からの通学にも配慮する。それから、都市部またはその近郊へ配置する。それから文化、歴史、商工業、地域連携の基盤、そういった地域性も加味する。そういった議論を、非常に数多くしてきた結果、推進委員会としての方向性を決めてきました。

ですからこれを、県の教育委員会が実施計画に向けてどう取り扱うか。それは、県的な、全県的なことをお考えいただいて、先ほど 4 つの報告書が出そろった段階でというご説明でしたので、それは多分全県を考えてということであろうかと思えますので、そういう取り扱いをしていただけないかと思えます。

先ほどから出ている、推進委員会の報告書の取り扱いの話にすべて集約するわけです。そうしないとすべてのところに、その文面をつけ加える必要があるんです。取り扱いに関しては先ほどご説明いただいておりますので、今の森野委員のご意見は反映されると思います。

(森野副委員長)

わかりました。

(中村委員長)

特にございますでしょうか。ほかに、修正案の修正というような観点で。

(坂口委員)

言葉でもよろしいですか。

5 ページであります。下から 3 行目になっていきますか。そうですね。その前からいくと、名前が挙がった地域に、県教委から同窓会、地域の市教委とありますが、これは市町村教委というか、これは村もかかっているかに思いますので、修正いただいたほうがいいのかと思います。

(中村委員長)

わかりました。議事録から、そのままコピーしてきましたので、発言のとおりですが、意味はそういうことですね。「市町村」ということを、追加したいと思います。

(坂口委員)

それから、7 ページの中条高校、犀峡高校の統合についての要望ということであれば、2 つ目の「・」は、これはわれわれの思いであって、要望にはならないんじゃないかなと。無理があるという。この文末では、要望にはならない。ですから、これはわれわれの思いで、上のほうにその方向性として含まれるもので、この 2 つ目の「・」は要望としてはちょっと列挙できないんじゃないかなという気がいたしますがどうでしょうか。

(中村委員長)

方向性を定めて、そこに配慮していく部分を要望というタイトルにまとめてつけ加えさせていただいている立場ですので、要望でないことも確かに入っております。

(坂口委員)

わかりました。

(中村委員長)

そうですね。ほかのところも要望でないのではないかなというような表現がありますが、それを突き詰めていくと要望になるわけですけど。

(坂口委員)

わかりました。

それからもうひとつ前の、中野と中野実業、総合学科の件で、これもやはり要望のところでございます。1、2、3、4 つ目の「・」、これは新しく入れたという、先ほど委員長さんのお話ですが、非常に大事なところかなと思います。

ただ魅力のところ、また地域の特色を生かしたものを、意味では理解できるわけであり

ますが、その地域の特色のみ強調すると、じゃあ総合学科はすべての地域に必要なって
くるわけであります。そうすると、地域の特色を生かしつつというような表現のほうがい
いのではないかなという気がいたします。

例えば塩尻いうと、ワイン、醸造等生かしたものを大いにコースの中に入れているとい
うことを考えれば、生かしたものをというよりは、生かしつつ、さまざまな学力等多様化
した生徒も受け入れるというような、若干その下の部分と含めたりしたほうが、われわれ
の思いというのは伝わっていくのではないかなというようなことを思いました。

（中村委員長）

そこもそうですね。「特色も生かしつつ」とか「特色を生かしつつ」というような表現に
換えさせていただいてよろしいですか。

ほかにございますでしょうか。

（丸山委員）

8 ページの、これは確認。この前の前回の意見、議論の確認ですが、長野南高校と松代
の方向性のところの2番と3番は、2番目が松代高校の校舎校地を活用することが望まし
いと考えられると。3番目が、長野南高校の校舎校地を活用していくという意見も出てい
るという書き方ですが、これは順番で書くと先と後でなるが、同列であると。どちらのほ
うを使うという両方の意見が出たということで、両論併記的な書き方だという話があった
と思うんですね。

ちょっと私もそのとき気がつかずに、後で読んでみて活用することが望ましいと考えら
れるというのが松代で、長野南は意見も出ているということだと、ちょっと並列とはなっ
ていないんじゃないかなという気がしますが、それはいいんでしょうかね。

（中村委員長）

2つに分けずに、1つの文章に、考えられる地域の15歳年齢の人口の、と続けてしま
うということでもよろしいですか。それとも、意見も出ているところを、活用していく
と、ということも考えられると同じ表現にするのか。

まるっきり末尾を同じにするということでしょうか。意味合いは、確かにそういうこと
ですので、まだ検討。方向性と要望のところも含めて、そういう意味だと思います。

いかがでしょうか、今のご意見。修正のご意見。

ちょっと、具体的に表現をお願いします。

（丸山委員）

私の意見は、全く違うことは前提です。文章だけもし、両論併記だとしたら、「望ましい」
というのは取って、「活用することが考えられる」「どちらも活用することが考えられる」
こういうことから、こっちを活用していくことが考えられる、こういうことからこっちを
活用することが考えられる、というふうでいいんじゃないですか。望ましいというより、
そっちが望ましくなるんじゃないかなという気がするんですがね。

(中村委員長)

要望のところに、再編統合が必要な状況にないと判断できるということで書かれていますので、その2つ、並列に同じ表現で載せるということになるかと思いますが、特にこれは文章の前後、あるいは末尾にかかわらず並列ということで書かせていただいているので。

よろしいでしょうか。もう一度申し上げますと、「松代高校の校地校舎を活用することが考えられる」という表現と、「長野南高校の校地校舎を活用することが考えられる」。まったく同じ表現ということでいかがでしょうか。

特に市川委員からは、ここに対する意見をいただいています、この文面で賛成ということをお願いしていますが、今日ご欠席です。これは致し方がないので、この場で決めたいと思います。

これは、両方書くと両方活用するということで。まあ、同じですね。最初と。どちらかということですから。並列の表記で、今、申し上げたように同じ表現にするということにさせていただいてよろしいですか。ご意見ある方。

特になければ、そのように修正ということでお願いいたします。

ほかは、よろしいですか。

(清水委員)

多部制・単位制の個所ですが、具体的にどういった文章がいいかということは、特に考えつかないですが、この委員会において何度も話に出ていますように、多部制・単位制高校そのものに対する認識というものは、この委員会の中ではある程度認知されていて、魅力のある学校であるということは、前提として話ができたとおもうのです。

ただこの文面を見る限りにおいては、どうも委員会の中で話が出た、その多部制・単位制に対する、いわば偏った見方というか印象というものを払拭できないという意見も出たと思います。

つまりその多部制・単位制高校の魅力を、地域の方々にじゅうぶん理解していただけないというような文面も必要なのではないかと思っておりまして、それぞれそれに似通った文面もないことはないのですが、どうもやっぱり趣旨が違うなと思うのです。

この9ページの要望の、上から2番目の「・」ですね。多部制・単位制高校および定時制高校では、少人数教育の必要性和メリットを重視してもらいたいというのは、この推進委員会が県教育委員会に要望している内容という受け止め方のように私はと思いますが、どうでしょうか。

(中村委員長)

2点ご質問ということでよろしいでしょうか。方向性の一番最初のところに新たなシステムを導入していくという、そういう判断を入れたわけですね。それは推進委員会で、多部制・単位制の魅力を委員さん方のご理解をいただいた結果。ただし書きは確かにあります。再編整備に向けての要望ということで、ここは議論の多さに応じて、やはり項目は多いわけですが、9ページの3つ目の「・」ですね。

ここにやはり、地域の理解ということであれば、これからしていくことだと思えます。

これから地域の理解を得ていく、じゅうぶんな説明のもとですね。そのことが、ここの要望のところにに入れさせていただいているということで、反映しているのではないかと考えますが。

それと推進委員会が教育委員会に要望すること、9 ページの一番上の「・」ということですが、そのとおりではないでしょうか。それは、報告書でございますから、われわれが議論をしてきた結果、そういう思いに至ったということも、要望していくということです。

（清水委員）

この8 ページの3 番目の「・」点の意味合いというものを、もうちょっとご説明いただけますでしょうか。

（中村委員長）

これは多分、地域からのご懸念が、今までやってきた魅力づくりが継続されないんじゃないかというご意見をいただいている、それに対するご意見をここに書かせていただいたと思います。そういう議論も、確かにしました。

今までやってきたことは、コース制なりそういうことで、転換した後もじゅうぶん魅力づくりとして実現していく。地域と協力してやっていけると判断できると。多部制・単位制の内容をよく理解すれば、非常に幅広いシステムですから、こうでなければいけないというところは、案外少ないですね。視察してきた高校も、それに応じて、地域に応じて、あるいは集まってきた生徒に応じて、いろいろな工夫をされて、努力をされているわけですから、そのことをここに含ませていただいている。継続できる。

もし文面の修正ということで、何かご提案いただければわかりやすいのですが、多分議論してきた内容の表現は、やはり表現した人の思いも入っていますし、皆さんが正確に把握できるようにすると、やはり用語や何かもかなり慎重にならざるを得ないところがありまして。

（清水委員）

今、委員長さんがご説明いただいた内容が、まさにそのとおりだと思いますので、私が盛り込んでいただきたい内容はそういうことです。ただこの「・」3 番目の文章が、そういった趣旨として受け取っていただければ幸いなんですけど、大丈夫かなと思ったんですが。

（塚田委員）

清水さんのお考えを、ちょっと私もまとめてみたいのですが、多部制・単位制がこの委員会で魅力ある高校づくりを目指して導入すべきだという意見が出たが課題もあると。その課題を、特に地域でもまだじゅうぶん理解されていないので、その地域の皆さんの理解を得ていく努力も必要だということですかね。

そうすると、この8 ページの上から3 つ目の「・」で、それを委員長が言われたいんじゃないかなと、私はそのように理解しますが、どうですかね。その辺、皆さんのご理解は。

（中村委員長）

こういう表現のほうがいいんじゃないかというのが、ダイレクトで非常にありがたいです。確かに文の稚拙さがあるかもしれませんが、それはいろいろな思いを中に含めていると思いますのでそうになってしまうんですけど、その代わり項目が多くなっています。「・」の項目が多くなって、重複する表現もかなり入ってくると思うので、何か単語なり一文をつけ加えていただければ非常にありがたいのですが。

（清水委員）

先ほどの方向性の一番上ですね。この多部制・単位制高校を魅力ある、わざわざシステムとして導入していくと、こう言い切っているわけで、これはまさに委員長さんがおっしゃったように、この委員会においては多部制・単位制の高校が魅力あるんだという前提にのっとった文面だと思います。

ですが、やはりそれとは別にこの要望のほうにできればもう1項目加えさせていただいて、多部制・単位制高校の魅力をじゅうぶん地域の方々に理解していただく必要があるというような文面を入れていただければ、私もすっきりするのですが。

それ以外の、要望のところは、「・」3番目を除けば、かなりの部分が、その課題が多いとか大変だというような意味合いの文言が多いように思います。それも確かにそうなのですが。

（中村委員長）

9ページの要望のところの、最後から2つ目ですね。これの表現でよろしいんじゃないでしょうか。

（小山（壽）委員）

清水さんのご意見は、地域に理解を得るということをもう少し強調したほうがいいというような意味合いですね。そうしますと、この文章そのものはいくつかの課題が考えられるで、この課題についてじゅうぶん配慮していく必要があるというのが結論ですね。ですから、これらの課題についてじゅうぶん配慮し、地域の理解を得る必要があると、直せば、地域の理解が強調されますので、この文章の中の配置をちょっと変えれば、解決するのではないかと思いますがいかがですか。

（中村委員長）

具体的に修正文章を提案していただきましたが、清水委員、よろしいでしょうか。ほかの委員さんもうどうでしょうか。

読み上げてみましょうか。「地域の理解」が重複してしまいますので、これらの課題についてのところから読ませていただくと、「これらの課題についてじゅうぶん配慮し、地域の理解を得ていく必要がある」。まだ、ございますか。

（清水委員）

まさに地域だと思いますが、こちらのところには地域等とありますが、それはPTAとか学校関係者とか同窓会、そういったものも含んだ地域という意味なのでしょうか。

（中村委員長）

それぞれのところで、統一してはいないんですね。その文章の思いに応じて、地域が主体であったり広く皆さんであったり、そういう思いで用語がいろいろ使われております。同窓会と入れるのであれば、そこに同窓会と入れても、これは同じことだと思いますが。

（清水委員）

はい、結構です。

（中村委員長）

どうでしょう。

同窓会をつけ加えて、「同窓会や地域の理解を」と入れますかね。そうするとなかなか限定されて、逆に。

（小山（壽）委員）

ほかにも、いっぱい出てきちゃうので。

（中村委員長）

そうですね。

（小山（壽）委員）

趣旨の中に、すべてそういうものが含まれているという考え方でいったほうがいいんじゃないですかね。

（清水委員）

そのように皆さんで認識しておられているのであればいいと思います。

（中村委員長）

そうですね。いろんな文章の流れの中で、同窓会が付け加わっていたり、学校関係者が付け加わったりしていますので、ここは地域でいうと広くもとらえているということだと思います。

（清水委員）

はい。

（中村委員長）

よろしいでしょうか。

(清水委員)

はい、理解しました。

(中村委員長)

ほかにございますでしょうか。

(中沢委員)

先ほども 10 ページ、11 ページで論議になりましたが、その下から 2 行目のところに、実施計画策定時に確実な実施時期を定めて、その計画を早期に示す。さらにまた実施計画に基づいて速やかに実施するということで、早急にやらなきゃならないということが、じゅうぶんそこに示されていますので、次の 11 ページの 2 行目に至っては、実施計画の慎重な策定とともに、早期実施においてはということ、その「早期実施を望む」ということを、あえて入れなくても素直に早めていかなければならないという気持ちが重々わかるんじゃないかなと、こんな思いもするんですが。

(中村委員長)

これは明らかに文章をよく推敲しなかった結果だと思しますので、ご指摘いただいたとおり取っても大丈夫だと思います。重複した表現になってしまっています。ありがとうございました。

(青木委員)

訂正する箇所を読んでもいただけますか。

(中村委員長)

その、「よって」からの文章が、そのままこれは二重に表現されていると考えてよろしいのでしょうか。「よって」からの次のところを付け加えたがために、重複の文章になってしまっている。

それでは、11 ページの一番上のところを読みますが、「これから進学する生徒の充実した教育を受ける権利を保障していかなければならない」、その後の一文を全部取りまして「ならない。早期実施においては地域を含めた」。そうすると、そこが足りなくなってくる。

(中沢委員)

この頭に、「実施計画の慎重な策定とともに、早期実施においては」と言ったらどうかなと思います。ただ「早期実施を望む」という、その部分だけカットしてもよくないなと思って。

(中村委員長)

そうすると、その文章がちょっとつながりが悪いですね。

(青木委員)

いずれにしろ、「慎重な策定」という文言はカットしないでください。

(中村委員長)

ああ、そういうことですね。

そうすると。

(坂口委員)

「早期実施においては」の「早期」だけ取れば、意味は繋がるかなと思います。

(森野副委員長)

実施においては、地域も含めた。

(中村委員長)

今ご指摘いただいたように読みますと、実施計画の慎重な策定とともに、実施においては地域を含めた関係者の理解と協力を得る、調整を図りながら。よろしいでしょうか。

(青木委員)

早期実施は逆かもしれませんね。前のページ、速やかな実施という言葉は。

(中沢委員)

そこにあるから、わざわざそこで言わなくても良いのではないのでしょうか。

(中村委員長)

もう一度読みますと、「実施計画の慎重な策定とともに、実施においては地域を含めた関係者の理解と協力を得る調整を図りながら」。あまり、おかしくなくつながったと思いますがいかがですか。

(坂口委員)

お願いいたします。

最後の6番の終わりに、非常に大事なことがまとめられているかなと思いますが、ちょっとわかるようでわからないところなんですが、下から5、「高校は関係者や地域だけのものではないが」、この「関係者」。それからその1つ下にも「関係者の理解と協力」、この関係者というのは、具体的にはどこまで指しているのか、ちょっとそこを確認させていただき、「高校は関係者や地域だけのものではないが」、ここで先生が出てくるわけですね。それから「地域の人々」が出てきます。同時に、やはりそこに学ぶ生徒諸君の熱意や努力というのも、やはり学校づくり、魅力づくりには欠かせない要因といえますか、人材じゃないかなと。

ですからこの関係者ということが、ちょっとわからないということと、教職員、生徒、そして地域、人々の熱意や努力ということで、生徒、高校生もやはりここに、魅力づくり

にはかかわってほしいなという、そういう思いを持っておりますがかがでしょうか。

（中村委員長）

生徒のところに関しては、同窓生や教職員の、そこに付け加えさせていただいて、「生徒や同窓生、教職員、地域の人々の熱意や努力なくしては魅力あるものとはならない」、とすると、どうでしょうか。

（坂口委員）

送られてきたもので、ちょっと今見えていますので、今日送られてきたものと若干変わっていますね。今日のはちょっと違ってきますね。同窓生が入っていますね。これは生徒も含めた。そうですね。

これは、ちょっと昨日の直接学校へ送っていただいたもので、今ちょっと話をしておりますが、同窓生が入ってきておりませんが。

（中村委員長）

迷いがあって、入れたり取ったりしたもので。

何と言ったらよろしいんでしょうか。その辺を、すべてを表現するわけにいかないで、やはり文章の流れの中で、その重みを置いているところが表現されている。

「生徒や同窓生」とすると、非常に広くなると思いますが。

（坂口委員）

そのイメージというのは、同窓生というのは。

（中村委員長）

全員。

（坂口委員）

今まで卒業した。

（中村委員長）

そうですね。

（坂口委員）

そこにいる生徒は。

（中村委員長）

「生徒」という。

（坂口委員）

生徒ですね。

(中村委員長)

生徒と同窓生、生徒や同窓生、どちらがいいですか。

(塚田委員)

これ、文面を読むと、最初の高校は関係者という、この関係者の中に子どもたちが入る。直接の関係者と読み取れますが。

(中村委員長)

そうですね。これはかなり広い意味での表現だと思います。

(坂口委員)

ちょっと、教職員は別にまた出ていますので。ちょっと、その関係者の範囲が読み取れなかったのです。

(中村委員長)

多分、生徒、同窓生、教職員、地域の人々を総称して「関係者」と。県民も含んでいるとは思いますが。

(塚田委員)

そしたら、わざわざ同窓生、教職員も入れなくてもいいかなと思います。

(中村委員長)

坂口委員に指摘いただいたように、「生徒」というんですかね。現場で直接かかわっている人たちの熱意ということで、そこのところを強調して。関係者というと、何かこう、あまり広くなり過ぎちゃっていけない。

関係者の中には見守る方もいらっしゃいます。でも、現場では熱意、努力が必要と、そういう分け方だと思いますが。

(小山(壽)委員)

いっそのこと、「関係者や地域だけのものではないが」という部分を切ってしまえば、その後の関係者は当然同窓生、教職員、地域の人々ということになるだろうと思いますし、この「関係者や地域だけのものではないが」という文章が入った背景は何となくわかりませんが、特に今回の問題、議論している中で考えると、なぜこの語句が入ったのかという背景はちょっとわかるのですが。

(中村委員長)

そうですね、はい。全県的なもので考えていくという、その背景があります。

(小山(壽)委員)

恐らくそうだと。

(中村委員長)

確かにそれはありますので。

そこを除かせていただければ、じっくりくるかな。

読みますね。「今後、より一層の魅力づくりを進める必要がある。生徒や同窓生、教職員、地域の人々の熱意や努力なくしては魅力あるものとはならない。子どもたちが学び育つ上では、関係者の理解と協力を切にお願いしたい。」「高校は」残してもらったほうがいいかな。主語がなくなってしまうから。「高校は、生徒や同窓生、教職員、地域の人々の熱意や努力なくしては魅力あるものとはならない」。

休憩時間がかかなり過ぎていますが。ご意見を伺ってしまいたいと思います。

(小山(壽)委員)

意見でも何でもないので、8ページです。方向性の3つ目の「・」, その中で屋代南高校のある坂城町と千曲市と、こういうふうに文章がつながっていってしまいますので、「ある」と「坂城町」の間に、句読点があるといいのか、ちょっとそこは私は国語が専門じゃないのでよくわからないのですが、かといってほかをそんなにきちっとよんでいくわけじゃないので、ここだけちょっと苦になって今言っているんですが、こんなところについて文句をいっていいのかなのか、ほかについて、全く見落としている部分がきつとあると思うのです。

この部分、ちょっと苦になったんです。

(中村委員長)

コンマは必要ですね。そうしないと、屋代南高校が坂城町とかかってしまいます。ありがとうございました。

(宮本委員)

9 ページの一番下にありますが、多部制・単位制の利点や要素というのは、具体的にどんなことだったのでしょうか。

(中村委員長)

これも、ご指摘いただき、意見をいくつかいただいたものをまとめたのですが。

(丸山委員)

それ私が言ったんですね。

(中村委員長)

そうですね。丸山委員のご意見をそのとおりの文章を書きました。

(丸山委員)

もともとは、多部制・単位制を無理してつくらなくてもという。なかなか多部制・単位制をどこにということが難しいので、そういうふうにやってみたらどうかという話の中であったんですが、一般的にいても、これでもし、この辺に入れておいてもらえばいいん

ですが、例えば単位制という問題とか、それから３年で卒業するという問題とか、できるという問題とか、そういうことについて、多部制・単位制に行けない場合の生徒たちも、そういう多部制・単位制のメリットがあるとしたら、それをやはり工夫できるところは工夫するという、そういう意味で発言したと思います。

もともとは、多部制・単位制にできないので、そっちの定時制にそういうことをやったらどうかという発言でしたが、そういうことですね。だから言ってみれば、これでいいと思います。

（中村委員長）

今の、現状の定時制でも努力されている高校ということですよ。その辺をさらに導入するなり、強調して行ってほしいということですね。はい。

（宮本委員）

９ページの上にありますがお金をかける必要があるというのは、全体的にほかの表現と同じようにして、特に財政的な支援が必要と考えるとか、何かあまり、直接的な、言葉ではそういうのが出ましたが。

（中村委員長）

そうですね。ほかは財政という言葉を使っていますので、お金をかけるというと何か無駄遣いをするような感じがしますが、わかりました。施設設備の面で財政的支援が必要である。という表現でよろしいでしょうか。ちょっと表現が弱くなりますが。

それほど意味が違うわけではありませんから、今の表現でよろしいでしょうか。

（塚田委員）

すみません。もう重箱の隅です。さっきの１１ページの文章のつながりで、「最後の努力なくしては魅力あるものとはならない。子どもたちが学び育つ上では」となっているのですが、「子どもたちが学び育つ上で関係者の理解と協力を切にお願いしたい」か、「学び育つ上では、関係者の理解と協力が大切である」とか。

（中村委員長）

案はそうですね。助詞を取りたいと思います。子どもたちが学び育つ上で。「上では」というと、何かほかのことが並列で表記されてしまいますので。

ほか、ございますでしょうか。これまでの修正のご意見をいただいた範囲内では、この後若干長めに休憩を取っていただき、事務局で文面の修正を行います。あまりご意見の修正ということではなかったので、文章の修正をいただいて、コピーを急いでしていただきまして、もう一度配布して確認していただくということで、報告書をこれで取りまとめさせていただきますということになるかと思います。

もう一度お伺いします。報告書案について、ご意見、このほかにございますでしょうか。

特になければ、どうでしょうか４０分ほど休憩をいただくということで。でき次第です。で、３０分程度か４０分程度ということで休憩を取らせていただいて、その後で再確認をさ

せていただきたいと思います。

それでは、休憩の時間とさせていただきます。

【休憩後再開】

（三澤教育支援主事）

それでは、よろしくお願いいたします。

（中村委員長）

はい。それでは、報告書（案）の修正について、確認したいと思いますが、その前に地域等からの情報といいますか、文章が届いておりますので、皆さんのお手元にも届いているかと思いますが、屋代南高等学校の多部制・単位制高校への転換候補の再考について（要請）ということで、『屋代南高等学校の将来を考える会』代表小林かよ子様から文書をいただいております。

皆さんのところに、あらかじめ届いていると思いますので、今日は報告書（案）の取りまとめということで、それも勘案していただいていると思います。それでは、報告書（案）を今皆さんからご指摘いただいたところを、事務局で修正していただきましたので、確認ということでお願いいたします。

まず、5 ページ目、下から 3 行目。地域の市教委となっておりますが、そこを「市町村委」と修正してございます。発言のとおり書きましたので、こういうことになりましたが、意味は「市町村委」ということです。よろしいでしょうか。

7 ページ目です。これは、上から 11 行目、要望の中の 4 番目の「・」の 2 行目ですね。「また地域の特色を生かしたものをつくり上げていく」となっておりますが、これを「また、地域の特色を生かしつつ、魅力ある高校をつくり上げていく」。先ほど、「つつ、つくり上げていく」ということになっておりましたが、目的語がなくなってしましまして、ちょっと意味がはっきりしませんので、「魅力ある高校を」というものを入れさせていただいていますが、ここは、文章表現だけですので、内容までは修正ではないのでよろしいかと思いますが、もう一度読みます。「また、地域の特色を生かしつつ、魅力ある高校をつくり上げていく」。よろしいでしょうか。

それから 8 ページ目、方向性の 2 番目の「・」ですね。「校舎校地を活用することが考えられる」。「望ましい」を取りました。「活用することが考えられる」。それから 3 番目の「・」のところ、「校舎校地を活用することが考えられる」、同じ表現にさせていただきました。それと 8 ページの、方向性の 3 番目の「・」の 3 行目、「屋代高校のある」と書いてある、その「ある」の次にコンマを入れる。修飾関係がおかしくなってしまいますので、並列であるというところを、わかりやすくコンマを入れる。コンマが入っておりますでしょうか。よろしいですか。

それから 9 ページ。上から 5 行目。「お金をかける」となっていましたが、ほかのところの表現と合わせるということで「施設設備の面で、財政的支援が必要である」。よろしいでしょうか。

それと、3 番目の「・」の 2 行目、「これからの」というところから、修正した文言が「こ

れからの課題についてじゅうぶん配慮し、地域の理解を得ていく必要がある。』よろしいですか。

それと、これは先ほど意見、修正案として出ておりませんが、4.5 の黒い角丸黒枠の中の最初は長野西高校「定時制」となっておりましたが、これは明らかに間違いですので「通信制」と修正いたしました。長野西高通信制の多部制・単位制高校への統合。

あとは11ページ目。表現の重複ということで、ご指摘いただきました。11ページ目の一番上の行の「実施計画」のところからですね。「実施計画の慎重な策定とともに、実施においては地域を含めた関係者の理解と協力を得る調整を図りながら」ということで、一部、その「早期実施を望む」という文章と、「早期」というところを取らせていただきました。

11ページの「おわりに」の段落の中の上から6行目、「高校は、関係者や」となっておりませんが、「高校は、生徒や同窓生、教職員、地域の人々の」と、関係者のあたりを少し明確な意味合いになるように修正していただきました。

それとその続きのところで、「子どもたちが学び育つ上では」となっていたのですが、その「は」を取る。「子どもたちが学び育つ上で、関係者の理解と協力を切にお願いしたい」と修正していただきました。

以上ですが、確認いただけましたでしょうか。

はい。今日は、予定の時間になっております。大切な報告書です。われわれ推進委員会の委員も含めて、関係者にとっては大切な報告書ですので、細かい字句の点についても注意を払っていききたいと思います。提出まで、若干時間的余裕もありますので、その点この土日、今日明日ぐらいいまでにご指摘いただければ、私までまた申し出ていただきたいと思います。

その上で委員長に一任いただいて、修正をしたものを報告書として教育委員会へ来週届けたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

そうしますと、今日の議題はこれで終了ですが、何か特にございますでしょうか。事務局からは、何かありますでしょうか。

（吉江高校教育課長）

誠にありがとうございました。19回を数えるということで、恐らく先ほど委員長さんからもご発言いただきましたように、この回で皆さまがお集まりいただくのは終わりかと思う次第です。

つきましては、本日丸山教育長が参っておりますので、皆さまに対しましての御礼を申し上げますので、よろしくお願いいたします。

（丸山教育長）

本日は長時間にわたりありがとうございました。委員長さんのお話で、後日教育委員会に対しまして報告書をご提出いただけるということでございますので、推進委員会としましての開催は、本日が最後となったわけでございます。その御礼かたがた、一言ごあいさつを申し上げたいと思います。

平成17年5月29日第1回の推進委員会を開催いたしまして、私どもから、まず「魅力ある高等学校づくりに関する事項」、そして「総数の決定基準に基づく、県立高等学校の再

編整備に関する事項」また「総合学科高校および多部制・単位制高校の配置に関する事項」などについての検討をご依頼申し上げたわけですが、それ以来 19 回にわたりました、本当に精力的にご熱心に審議を進めていただき、それぞれのお立場から貴重なご意見をいただきました。

ご審議にあたりましては、県内外の学校施設を伺っていただきましたり、地域からのご意見やご提言等を参考にさせていただきながら、全体的な立場に立って、慎重な審議を進めていただいたことに対しまして、深く感謝申し上げる次第でございます。本当にありがとうございました。

今後は、本県の高校教育が一層充実したものとなりますよう、ちょうどいいいたしました報告書を参考にいたしまして、本年度末までに県教育委員会として実施計画を策定し、速やかに高校改革を進めてまいりたいと考えている次第でございます。

第一推進委員会の委員の皆さまにおかれましても、今後も引き続きさまざまなお立場から、長野県教育の発展のためにご支援、ご協力をお願いできましたらと考えている次第でございます。

最後になりましたが、これまでのご協力にあらためて感謝申し上げまして、簡単でございますが、ごあいさつとさせていただきます。本当にありがとうございます。

(中村委員長)

皆さんから特になければ、これで終了させていただきたいと思いますが、19 回にわたりました大変ご熱心に、大変重い課題でありますので慎重に審議をいただきました。

また議事進行に対しても、多くの協力をいただきましてありがとうございました。私の思いというのは、報告書の最後の辺りに書かれているとおりでございますので、お読みいただいたとおりでございます。お礼の言葉としては、もう感謝しているということを申し上げるしかないものですから、大変ありがとうございました。

これで、第 19 回の高校改革プラン推進委員会を終わりますとともに、推進委員会すべての議事を終了させていただきます。